

希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

自ら学ぶ子
だれとでも仲よくする子
進んできたえる子
人とのかわりを大切にする子

歌の力

校長 石黒 真愁子

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人の いるあたたかさ

は、歌人 俵万智さんの短歌です。冬も近づき寒い毎日ですが、互いに「寒い」という気持ちを分かち合うと、何とも言えないあたたかな気持ちになれるということを伝えている歌です。

今年度も残すところ、あと5か月となりました。これまで共に生活してきた仲間や励ましてくれた先生方、支えてくれた家族との生活を振り返り、あらためて「ありがとう」の思いを抱きながら、大門小の子どもたち一人ひとりが自己をみつめ、「どうすればより充実した学校生活が築けるんだろう」「あと5か月で自分には何ができるんだろう」ということについて考えて欲しいと願っています。

さらに、6年生はあと5か月で卒業式を迎えます。全国の多くの中学校の卒業式では、合唱曲「大地讃頌」と並び、合唱曲「旅立ちの日に」が歌われています。最近では、小学校の卒業式でも歌われるようになりました。本校でも、今年は、6年生が卒業に向けて、「旅立ちの日に」の練習を始めます。SMAPの商業ソングでもおなじみのこの歌は、埼玉県の秩父市立影森中学校の校長先生が、当時卒業する生徒たちのために作詞し、音楽の先生が曲をつけたものです。1988年、影森中学校の校長となった小嶋登先生は、「精一杯歌を歌えば心は健やかに成長する」という信念をもち、歌声の響く学校づくりに踏み出しました。当時の音楽科の坂本浩美先生は、他の先生方と心をつにし、全校をあげて合唱に取り組んでいきました。生徒たちは次第に歌うことの素晴らしさに気づき、先輩が格好良く歌う姿に後輩があこがれ、その歌声はさらに先輩から後輩へと受け継がれていき、やがて大きな輪となり広がっていきました。それから3年後、入学時から歌声の響く学校づくりを一緒にがんばってきた3年生たちへのプレゼントとして「旅立ちの日に」はつくられ、先生方によって歌われました。卒業生たちには、卒業アルバムとともに「旅立ちの日に」の楽譜が贈られました。その後、影森中学校の卒業の歌となったこの曲は反響をよび、周辺の学校から全国の学校へと広がっていったのです。影森中学校の卒業生の中には、辛いとき、苦しい時、ふと立ち止まってこの歌を口ずさみ、よみがえる熱き思い出を胸に、また前に向かって歩き出す人も多いと聞きます。仲間とともに心を合わせ、歌声を重ねた感動体験は、一生忘れることができない人間の心幹を支える大きな力です。本校の6年生にも、合唱曲「旅立ちの日に」に込められた心情を理解し、その思いをかみしめながら、心豊かに歌い上げてほしいものです。

♪ 弾む若い力信じて この広い この広い 大空に

の歌詞に込められた無限の可能性を信じる心を大切に、明日への憧れや希望をもち、残りの5か月間、仲間や先生方と力を合わせ、日々大切に過ごして欲しいと願っています。

最後に、11月には、校内音楽会が行われます。歌声の響く学校には、力強さと、やさしさがあふれていると信じています。